科　目　名	看護教育論 Nursing　Education	科目区分	共　通	単 位 数	２単位
教　員　名	谷口千枝＊，篠田かおる＊，小松万喜子＊， 小山眞理子＊，鈴木孝太＊ ＊：実務家教員	必修・選択	選　択	開講年次	第１学年
				開講学期	前学期

科目概要	看護教育の実際を体系的に学び，授業案を作成する演習を通して方法論を修得する。また，看護の役割を拡大するための継続教育，生涯教育の在り方と特徴を理解し，専門職としてのキャリア開発について探求する。
目　　標	１　看護教育制度の歴史的変遷を客観視し，看護教育制度の現状と問題点を述べることができる。 ２　看護実践力を支える教育について学修し，基礎的な理論および教育の方法について説明できる。 ３　継続教育・生涯教育のあり方について理解を深め説明できる。 ４　授業または研修計画の立案を通して体系的な教育計画の重要性を述べることができる。

内　　容					
	1	R7.5.17(土) 1～3	看護教育の歴史看護教育制度の変遷	看護の教育的機能　看護教育制度の発展と歴史的経緯	小松万喜子
	2			看護教育の歴史① 看護基礎教育の教育内容及び看護教育制度の変遷	
	3			看護教育の歴史② 看護教育の発展の経緯と今後の課題	
	4	R7.5.24（土） 1～3	看護継続教育と生涯教育	生涯教育としての看護職人材育成① 看護継続教育，新人看護師教育	小山眞理子
	5			生涯教育としての看護職人材育成② 看護教育における倫理	
	6			看護継続教育の様々な方法	
	7	R7.5.26（月） 6	看護教育に必要な学習理論	成人期の学習と学習理論	谷 口 千 枝
	8	R7.6.2（月） 6・7	授業設計と授業案の作成	授業設計と授業案作成(学生観，教育観，教材観)，インストラクショナルデザイン	篠田かおる
	9				
	10	R7.6.10（火） 6・7	事例に基づく教育方法の改善	学生の行動を観察し、学習意欲を高める方法（アクティブラーニングなど）	鈴 木 孝 太
	11				
	12	R7.6.16（月） 6・7	学修成果の評価とフィードバック	パフォーマンス評価とルーブリック評価作成	谷 口 千 枝
	13				
	14	R7.6.23（月） 6・7	まとめ	授業案の発表とフィードバック	谷 口 千 枝 篠田かおる
	15				

学修方法	１　授業運営は，講義，ディスカッション，プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いる。 ２　各項目で充分な事前・事後学修が必要となる。(90分) ３　授業内容への質問，課題発表の内容について授業時間内にフィードバックを行う。
評価方法	３分の２以上の出席を満たしている場合，評価対象とする。 授業への参加状況(20%)，発表内容(40%)，レポート(40%)により，総合的に評価する。
教科書・参考書	テキスト：特に指定しない。 参 考 書：下記に加え，適宜紹介する。 １ 舟島なをみ監：「看護学教育学における授業展開 第２版」，医学書院，(2020/9)，3,740 円(税込) ２ 中井俊樹，服部律子編：「授業設計と教育評価」，医学書院（2018/3)，2,640 円(税込) ３ Albert Bandura(原著)，本明 寛他訳,「激動社会の中の自己効力」，金子書房，初版８刷(2009/10)，6,600円（税込） ４ 糸賀暢子他：「看護教育のためのパフォーマンス評価 ルーブリック作成からカリキュラム設計へ」，医学書院，(2018/8)，2,970円(税込)
履修上の注意点	講義期間中に看護学部での１科目以上の授業見学をすることが望ましい。調整は教学課で行う。
オフィスアワー	谷口千枝：月曜日　16:30～18:00　看護学部棟４階　N451 研究室 篠田かおる：水曜日　16:30～18:00　看護学部棟２階　N257 研究室 ※ 兼担・非常勤講師については別紙で案内する。